



# バツは挑戦者の勲章です

保護者の方に話す講演会等で「バツの価値」「失敗は宝」のことについて話題に上ることが多かったです。

毎年どの学年、どのクラスをもってもそうですが、子どもたちの大多数は間違うことを嫌がります。

これは、学年が上がるほどその傾向が顕著になります。

場合によっては、間違いを恐れ、挑戦することすらなくなってしまうケースも往々にして見られます。

しかし、学習や運動に失敗や間違いはつきものです。

どんな学問や研究であっても、先人たちが生み出した幾千幾万の失敗の上に進歩が生まれてきました。

だからこそ、この失敗や間違いの価値は伝え続けていく必要があるのだと思います。

その時に第一に大切なのは、「声かけ」の仕方です。

子どもたちが成長していく上で、周りの大人たちの「言葉」が与える影響は甚大です。

特に、間違った時、分からなかった時、失敗した時の対応は「勘所」ともいえるほど大きな意味を持ちます。

その時の周りの反応や声掛けが、失敗や間違いに対するイメージを形成していくからです。

教室でも、毎日そうした場面に出くわします。

自信満々の回答が間違いだと分かった時。

みんなの前で思わず失敗した時。

突拍子もない意見で的外れな答えになった時。

素直に「わかりません」と答えた時。

そういう時の切り返し方、対応の仕方を日々ストックしています。

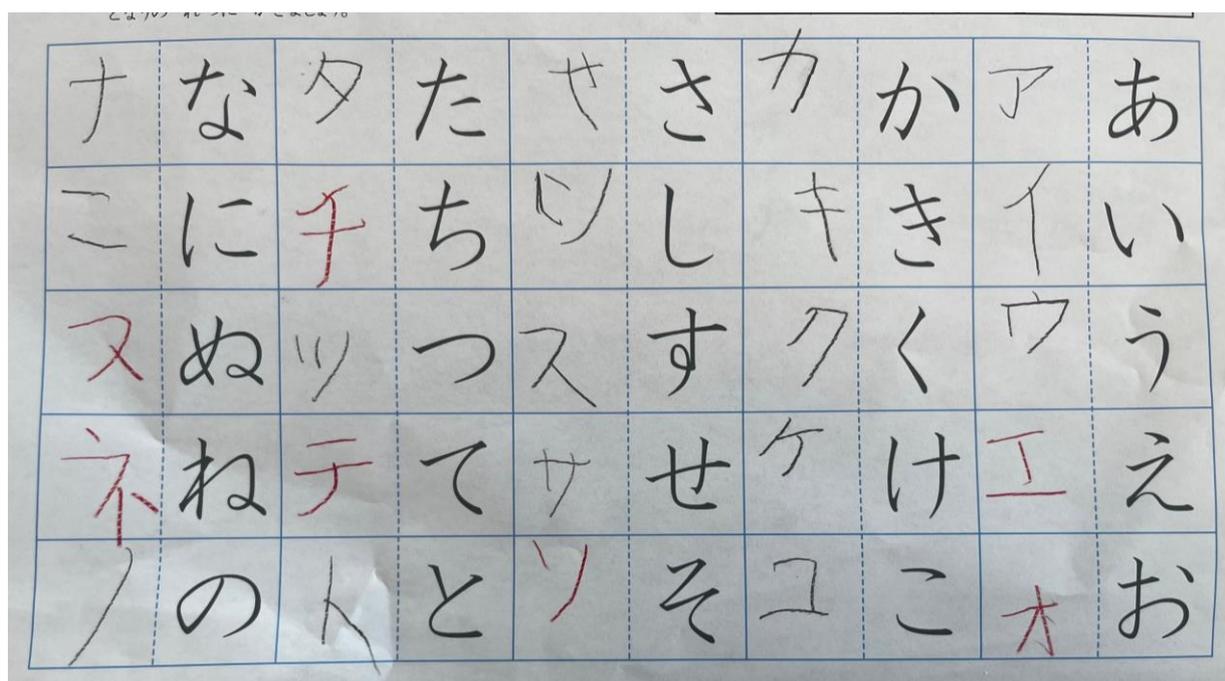
現時点で浮かぶものを、試しに紹介します。

- 間違っただ人は、何もしない人より10倍賢くなります。
- その調子で間違いの山を作るんですよ。たくさん失敗した方が、絶対に上手になります。
- バツは挑戦者の勲章です。
- 人生を決める大切な試験じゃなく、今間違えて良かったですね。ツイています。
- 間違いは人助けになります。同じ間違いをした人が、クラスに少なくとも5人います。
- 今の発言はいいヒントになりますね。
- これで正解に一步近づきました。
- これは宝物のバツですね。決して消さないでください。
- 〇回も間違えたの！？すごいね～何回間違えたか数えておくんですよ。
- 正解かどうかは大事じゃないんです。答えが出せるかどうかは大事なんです。
- 何度バツがついても問題に挑戦した〇〇くんを、先生は誇りに思います。
- 何回も間違えると、正解の瞬間が一層ワクワク感じられますね。
- 分からないことが分かったことが素晴らしい。
- 分からないことが分かるから勉強は面白いんです。大丈夫、この後ちゃんと分かるようになります。
- になります。
- 芸術的なセンスを感じます。
- これはすごいです。初めての意見です。
- これは〇〇君しか考えつかない答えですね。さすがです。
- オリジナリティがあって良い。
- 面白い！
- 間違っ、失敗して、賢くなっていくんです。それがお勉強です。

- 考える方向性だけは見事に合っています。
- これは完璧ですね。答え方が。
- すごくいい間違い方です。才能を感じます。
- 惜しい！惜しすぎる！！
- 100点満点中の99点！
- 絶妙な間違い方です。ほとんど正解。
- 人生正解ばかりじゃつまりません。時に失敗して間違うから面白いんです。
- 間違いは成功のもとです。天才と呼ばれてきた人ほど、多くの失敗をしています。
- 人生七転び八起きです。何度間違えても、最後に起き上がる人が素晴らしいんです。
- 人間万事塞翁が馬といいます。この間違いが次にどう生きるか、楽しみですね。

終盤に行くほど少し哲学めいてしまっていますが(笑)、これからもいい声かけが見つかればその都度ストックして使えるようにしていきたいと思います。(ぜひいいアイデアがあれば教えてください！) ちなみに、最近「失敗は宝」という言葉を使いこなせる子が増えてきました。

ちなみに今日は、第3クォーター最初のテストがありました。ようやく一通りのカタカナを学び終えたので、その習得度を測るテストです。



単にテストをし、採点のみをして返却すると、先に書いたような「失敗嫌い」「間違い恐怖症」などを続々と生んでしまいます。

そこで、次のように声を掛けました。

- 今日のテストは、「分からない」を見つけるためのテストです。
- カタカナが分からない時は、とばして次の文字にいきましょう。
- とばすのも、大切なお勉強です。

そして、次々と子どもたちが私のところに答案を持ってきます。

私はチェックをし、間違えた問題や飛ばした問題について、次のようにいいました。

- お手本を見て、間違えたり飛ばしたりした文字を写してきましょう。
- 写すのも大切なお勉強です
- 写すときは、必ず赤鉛筆を使いましょうね。

こうして、さっきの写真のようなオリジナルの答案が出来上がります。間違い直しをして答案を持ってきた子には、笑顔で次のように言いました。

- ちゃんと間違い直しができてすばらしい！
- 分からないところが分かって、良かったですね。
- 赤で書かれたところが、あなたの宝物です。
- 宝物の文字をたくさん使って、この後はしりとりをしましょう。

このように伝えて、次なる課題に空白を作らずに進ませました。

「分からないのがたくさんあった…」と肩を落としがちにきた子も、↑の言葉を聞いてにっこり笑顔で次なる課題に進みました。

カタカナは、学んだばかりのところなので、このテストをきっかけとして、これから定着を目指していく段階です。

いわば、テストをつかって定着を図っているところなので、その第一歩が完璧である必要はどこにもありません。

赤だらけの答案を持って帰ったら、ぜひ「宝物がたくさん見つかってよかったね」と声をかけていただければと思います。

こうやって、分からないところが一つ一つ分かるようになるのが、勉強だからです。

失敗や間違いを恐れず、たくましく挑戦し続けられる学級の雰囲気、これからも目指していきます。（渡辺道治）

(ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。)



[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)